

新潟県

# 公民館月報 11

平成14年11月号 通巻第597号



表紙 虫川の大スギ  
(浦川原村中央公民館)

特集 第43回関東甲信越静公民館研究大会  
主要参加県からの感想概要 総括2

視点 関プロって?

ひろば 人生の最後の時をバラ色に

サークル交流 KM宮原フラリズム (白根市中央公民館)

さかえウォーキングサークル (栄町公民館)

素顔拝見 小柳豪志さん (加茂市)

石山キンさん (関川村)

# 第25回全国公民館研究集会

## テーマ 「公民館新世紀」

〜ひと、こころをむすぶ・ふるさとづくり〜

平成14・10・3(木)〜4(金)

### 愛媛県民文化会館で開催

「松山城400年祭」で数々の企画・イベントが続く温暖の地松山市で、三千三百余の大多数の参加を得て第25回大会が開催された。本県からは七名が参加したが、第9分科会で十日町市公民館中条地区館が発表するということでもそこに集中参加した。印象に残ったことは、全体会講演で、「四国遍路は『日本の公民館』」と題して、愛媛県出身作

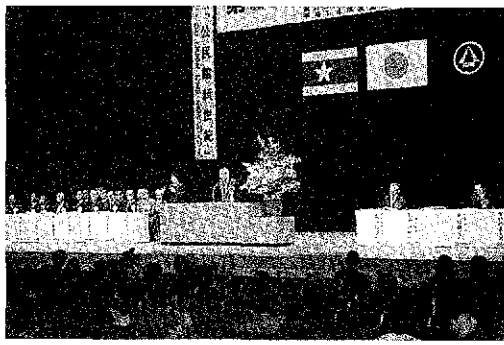
家早坂暁さんが、諸難病と対し、生命との対話をおして四国遍路の今昔を、具体的な事例を交えて話されたが、四国人の遍路への愛とか哲学を感じさせるに十分だった。また、愛媛県知事の歓迎のことばも、人間的なあたたかさを感じさせるものだった。

#### ☆第9分科会報告

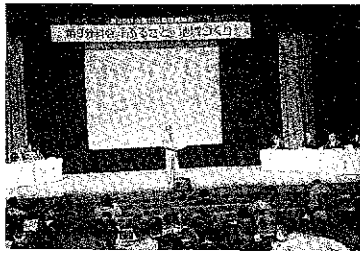
この度、全国公民館研究集会に参加する機会をいただき、第9分科会「ふるさと・地域づくり」に出席いたしました。島根県嘉久志公民館の子ども神楽を

とおしての特色あるまちづくりと、十日町市中条地区と岡山県山手村との交流をおしてのまちづくりでした。2つの実践発表は、子どもを中心としての活動が、他世代を巻き込んで他方面での活性化につながり、まちづくりになっていることが特色と感じました。少子・高齢化といわれる現代、地域の宝である子どもと高齢者を核に、青年層を巻き込み、多世代をつないでいくことが大切と思えました。このためのつなぎ方、核となる活動や中心となるひとづくりをどうするかなど、公民館の大切な役割を多く学ばせていただきました。

今井県公連会長さんの挨拶から始まった100人余の第9分科会、そして3000人を超えた全体会。この大会で学ばせていただいたことを、今後少しでも生かせるよう頑張っていきたいと考えております。  
(中公連事務局 長谷川 栄)

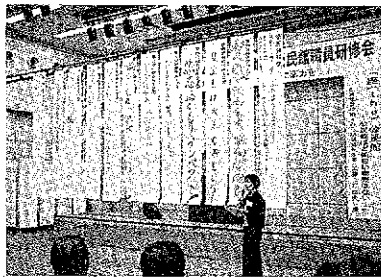


△愛媛県知事歓迎のことば



△運営責任者、今井理事あいさつ

### 【中公連、館長・主事・公運審委員研修会開催】



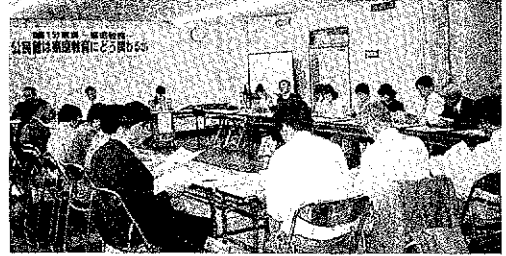
◆「やる気!元氣!公民館に活力を!」  
平成14・10・2(水) ○17人の参加  
◆柏崎市市民プラザ  
新装になった柏崎市市民プラザで生涯学習ゆめ・みらい研究所主宰工藤日出夫さんをお招きし、「座(the)公民館」公民館ほど面白い商売はない」と題して、実践事例を多く交えて基調講演がなされた。  
午後には、第1ボランティアの育成・支援、第2特色ある事業の展開、第3字社連携・融合、第4広報・チラシのデザイン、第5公民館職員のイロハ、と5つの分散会で討議が深められた。

### 【上公連、公運審委員・職員合同研修会開催】



◆「地域や家庭の教育力を高める公民館の役割」  
平成14・10・22(火) ○108人の参加  
◆リージョンプラザ上越  
あいにくの天候であったが、上越教育大学教授若井弥一先生をお招きし、研修会がもたれた。  
午前の事例発表は、(1)「児童教育と地区公民館のかかわり」について、青海町八久保地区館長から、(2)「健康づくりと学校週5日制への対応」について清里村館長から、(3)「家庭教育の現状と課題」について、松之山町教委派遣社教主事から、それぞれ紹介・発表がなされた。

### 下越地区公民館関係 役職員研修会開催



「たくましく、健やかな子どもが育つ土壌づくり～今、公民館に期待されること～」

◇平14・9・30(月)～10・1(火)

◇157人の参加を得て

◇五泉市総合会館及び

・咲花温泉「佐取館」で

関プロ大会終了1ヵ月後ということで、参加数の減少が予想されたが、主管公連の熱意あふれる努力により、157人という多数の参加を得て開催された。

今年度は大会テーマのみの設定で、あとは、第1家庭教育、第2学校との連携、第3地域づくり、第4初任研という分散会を設け、このテーマに迫ることとなった。

各分散会とも、それぞれ資料等を交えて熱心な討議が展開された。

第2日目の記念講演は、「地域の子どもに学ぶ」と題して、村松町さくらんど塾長、荒木快英先生から、ユーモアを交えて、具体的な事例をとおしてしめくくっていただいた。

## 視点



懸念されたが、猛暑であった。その中、千石余の参加者が集まり成功裡に終了できた。

昨年、初めて教育委

八月二十  
九日・三十  
日。立秋が  
過ぎ八月  
旬頃は、秋  
風が感じら  
れ、大会当  
日の天候が

員会に異動。「公民館」、  
「社会教育」ましてや  
「生涯学習」全くの素  
人である。  
館長からは、今年度  
は、五年に一回の「下  
越地区公民館関係役職  
員研修会」、そして来年

状態の頭に、とにかく  
「公民館」を詰め込ま  
なくてはならない。  
まずは、前哨戦の「下  
越地区公民館関係役職  
員研修会」の事務局と  
して、県公民館連合会  
の力添えと新潟市の公

会」を視察。この大会  
を見て、私の自信は揺  
らぐ……。全国大会を  
兼ねての大会ではある  
が、規模が違い、果た  
して上手くいくのか不  
安が横切った。  
組織力とは凄いもの  
である。機関車の如く  
邁進した。市の公連審  
の方々の温かいご協力  
も頂き、一つの芸術作  
品が完成。「ご苦労さ  
ま」との声が、夏の日  
差しの中交わった。

### 関プロって？

#### 藤井隆三

は、十一年に一回の「関  
プロ」があるので頑  
張ってもらいたい、と  
はっぱをかけられた。

「関プロ」とは何な  
のかから物事が始まっ  
た。そして同時に白紙

民館職員一丸となって  
無事クリア。この経験  
は、私にとって大きな  
糧となった。  
そして秋。長野市で  
開催された「全国公民  
館研究集会兼関プロ大

長補佐、第43回関プロ  
大会事務局担当)

### 人生の最後の時をバラ色に

味方村公民館運営審議会委員 斉藤 幸子



10年前  
の暮れも  
押し迫っ  
たある日、  
私達姉妹  
は父のお

骨を抱いて海を渡った。船  
から降りると外は吹雪、な  
つかしい街や村を過ぎ山を  
越え、最後の峠を越えて村  
にさしかかる頃には夜半に  
なっていたらどうか。道の  
両側に何やら白いものが並  
んでいる。一瞬、民話の笠  
地蔵を連想していると、「お  
帰るじいちゃん」なつかし  
いのお」と口々に話しかけ  
てくる声で我れにかえっ  
た。何と、この凍てつくシ  
ベリア降ろしの中を、村中  
の人が父の帰りを待ってい  
てくれたのだ。

## ひるば

「人の一生って、すばらし  
いものだよ」の言葉と共に。  
そして今、私は決してお  
むつを当てようとしな  
寝たきりの主人の父の世話  
に明け暮れている。一月七  
回、山のような汚物と洗濯  
物の山との格闘の日々では  
あるが、これが結構楽しい  
のです。「おじいちゃん九六  
年もよく頑張って生きてきた  
ね。もう好きにしていんだよ。  
我儘いっぱいしな。おむつなん  
かしなくていいんだよ。」とは、  
わが娘の介。本当にあなたの言  
うとおり。人生の最後の時が、  
心豊かで暖いものに包まれたな  
らその人の一生はバラ色で終る  
のです。こんな時を与えてくれ  
た義父に心からの「感謝」です。

「お待ちしておりました。」な  
つかしい近所のおじいさんの腕  
にしっかりと抱かれて、うれしそ  
うに父のお骨は家の中に入って  
行った。念仏が始ると、精一杯  
声をはり上げて、どの人の目も  
まっ赤だった。明け方、夜明け  
の念仏が終ると、「西の国まで  
しっかりと供させてもろうたで

# 研究大会 感想概要 総括2



△新潟駅頭での出迎え



## 越後の公民館人の暖かさに すばらしい大会経験に感謝感謝

「月刊公民館」関プロ担当通信員 千藤 尚志

★はじめに

去る8月29日(木)～30日(金)、新潟県豊浦町を会場にした第43回関東甲信越静公民館研究大会が開催され、私は千葉県から参加した。

今回、私は紀行文的に大会模様を報告する。

★いざ新潟へ

29日(木)朝、東京午前8時24分上越新幹線MAX309号に乗車。一路新潟へ向けて出発。あつという間に新潟へ。

用意されたシャトルバスに乗り新潟市内を通り抜け、大会会場豊浦町に到着。道すがら、係員の皆さんが我々大会参加者のために所要所に立っておられ安心感を得ることができました。

やがて、遠方に巨大でいかにも洗練された建物が見えてきた。会場の華鳳だ。入口の門構えを見ただけで豪華さを予兆。事実、ゴージャスな時間を過ごせた。豪華な施設に関わらず、安い金額で泊まることができたことは、実行委員会のご努力の結果だと思ひ、感謝と正に嬉しい限りである。

★厳粛さとなごやかさの閉会式

会場で受付けをすませ、全体会場へ、すでに多くの人でいっぱいになっていた。いよいよ開会。今井実行委員長のユーモアある挨拶に会場がはぐれる。ともすると固い挨拶が出やすい中で、好感のもてるものだった。

続いて基調提案、今研究大会

の位置づけ、そして目指すべき点が提案された。特に今日公民館の置かれた状況の厳しさを踏まえ、統一テーマ「公民館の挑戦」は、生涯学習時代の中で、中核施設として公民館の存在意義を実践の中で構築していくことの大切さがアピールされた。

★活発に盛り上がった分科会

続いて、この研究大会の柱である分科会が、15会場に別れて行われた。どの会場も大盛況。それぞれのテーマに基づき、様々なすばらしい実践が発表された。

私が参加した分科会は第10分科会。ここでは初めに全体会で発表者からの実践発表、質疑を受けた後、テーブルごとのグループによる討論時間をつくり、誰もが必ず発言し意見交流を設けたこと、最後に結果を

テーブルごとに報告しあう形で終了。これは非常に良かった。

今後大集会的な分科会の場合、少人数空間を確保できるスタイルとして、他の分科会でも取り入れるべき方式である。何といっても、参加者全員のなごやかな笑顔が物語っている。

★みんな喜んだ新潟県人の人情と心意気

2部のメインイベント。夜の全体交流会にいそいそと参加。これは誰も同じ気持ちだ。豪華な料理が並びみんな大喜び。そこにどめの一発。次から次に一升びんが回ってきたのだ。これには参った。感激した。歓声のどよめきがあがった。「来年も新潟で酒を飲もう」と誰かが叫んだ。それほど喜んだということだ。聞けば新潟の30市町村の公民館が地酒を持ち寄ってくれたとのこと。新潟県の公民館関係者の温かな気持ちに感謝したい。

★貴重な学び、交流、喜びを胸に帰途  
最終日(2日目)は、最初に記念講演が行われ、ユーモアの中に有意義な講演がなされた。

続いて永年公民館の発展に寄与された人々への表彰式が行われた。合計64名の方々が表彰の榮に輝いた。

そして最後閉会式。閉会式では新潟県へ感謝の大きな拍手。そして次回開催地埼玉県への激励の大きな拍手の中で、閉会の幕が降ろされた。

こうして2日間にわたる研究大会は、参加者に多くの貴重な学びと交流と楽しみをもたらした。最後に、参加した全ての公民館関係者はきつと同じ思いをして帰途についたと思う。

★ありがたう新潟の公民館人  
参加する立場の人、迎え入れる立場の人がある。今回の私はとても気楽に参加する立場である。しかし受入側は苦勞の連続だったはず。

多分、1年以上に渡る準備の中で、たくさんさんの問題を抱え、悩みながら一つ一つ解決し、頑張ってきた新潟県公連を中心とした公民館関係者の皆さん、ここにその苦勞への感謝と、今後の限りない発展を祈ります。





△山梨県公連担当第8分科会

# 特集

## 第43回関東甲信越静公民館 主要参加県からの

### 関東甲信越静公民館研究大会に参加して

山梨県教育委員会社会教育課社会教育主事 鮎川三枝子

山梨県から町名が参加し、その成果を地域に還元したり、報告会等を行っている。大会に参加した方々を代表して、南巨摩郡公連と韮崎市公連の方々の感想を御報告して、大会開催にあたり数々の御苦勞をいただいた関係者の皆様への感謝とお礼に代えさせていただきます。

南巨摩郡公連では、十月四日に、南巨摩郡公連の関プロ還流報告会を開催したので、その一部を紹介させていただきます。■第二分科会「時代に即応した町村公民館の運営」では、地域のニーズに対応するため、情報収集と地域の特徴を活かすことが重要であり、教育・交流の場を多く設け、導き・協力していただける人をより多く見だし、地域に応えられるようになるのが中央公民館の役割ではないかと考えさせられた。(富沢町中尾公民館主事 佐野治男) ■第四分科会「公民館活動のアピール方法」では、発表者の新潟県湯沢町公民館の内容が素晴らしく、予算が豊富な上、スタッフも充実しており、参加者から賞賛と羨望の的となったことが報告され

た。(中富町中央公民館長 望月明) ■第八分科会「子育て支援のネットワーク」では、本県武川村栗沢社教主事のベソソンを駆使した熱意あふれる発表内容が報告された。子育て支援の課題は父親の家庭教育参加促進である。(南都町 若林四郎、小倉利男) ■第十分科会「チャンスとしてとらえた五日制」は、参加者27名であり、本県からも32名が参加した。発表した新潟県頸城村では、「ユートピアくびき希望館」が生涯学習の拠点として活用され、毎土曜日には希望館を中心に小学校四年生、六年生を対象として「ウィークエンドクラブ」を開催している。人材活用のための「匠制度」と「出前宅配講座」のことが印象に残った。現在本町の「つきよね公民館」も本年度モデル館として五日制に対応し公民館を開放している。(増穂町 渡辺照夫)

■第十一分科会「明日をひらく女と男の学び、男女共同参画社会を目指して」では、「男女共同参画社会」と、お題目のように唱えただけでは逆立ちしても駄目で、全町的な問題として、まず首長の意識改革そして条例を先行させることが必要である。公民館も「男女共同参画社会」について行政の最先端として意識を啓発していかなければならぬ。」という助言者の言葉が印象的であった。(身延町中央公民館長 稲葉守正) ■第十二分科会「学びから、地域活動へ、これからの高齢者学習について」では、新潟大会は、その基本を学び活動創造と発展させ、過去の学び主体の形から目を開いた大きな進歩といえる。当分科会はその方向性を生かして討議が進められた。特に、これからの高齢者の学習に関わって、いくつかの実践例を含めた報告がされ、意義深いものとなった。また新潟では、公民館活動に従事する女性は、役所の縦系列の体制から参加者主体の活動に意識変革をもたらして楽しい活動の場づくりを得たことが報告された。講師は参加者の声をいかに吸い上げ活かすかが大切で、地元エゴに陥ることなく他町村との連携を考えるべきだなどが話題となった。(早川町 三井啓心、鈴木長雄)

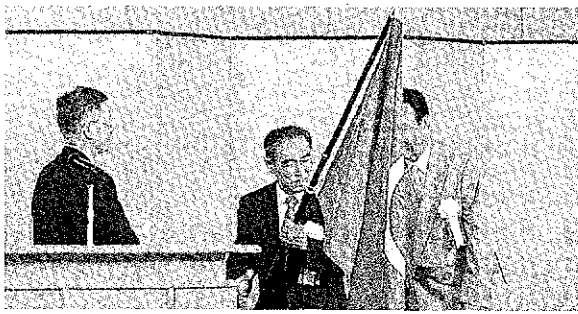
次に韮崎市公連から寄せられた報告の一部は次のとおりである。■第七分科会「総合的な学習におけるネットワーク」は、円テーブルが配置され和やかな雰囲気包まれて進められた。社会情勢に合わせて自ら参加出来るように、また学校側とも十分な連携をとり、お互いに理解し合って公民館活動を進めよう等の意見が出た。「嘘自己紹介は新鮮で印象的だった。(中田公民館主事 藤原さかえ) ■第八分科会では、責任者や世話人の配慮、司会者のすばらしい進行で熱気ある質疑応答、意見交換がなされ、助言者の豊かな経験の中から語られる一言一句に深い感銘を受け、多くの示唆を得た。(神山公民館主事 内藤祐介) ■第十分科会は、五日制への公民館の役割について意見交換、助言者の提言の後、替え歌の「幸せのワルツ」を斉唱して終了した。子どもに確かな生きる力を培うために腰を据えた対応が大事であると感じた。(韮崎公民館長 小池和男)

た。公民館も「男女共同参画社会」について行政の最先端として意識を啓発していかなければならぬ。」という助言者の言葉が印象的であった。(身延町中央公民館長 稲葉守正) ■第十二分科会「学びから、地域活動へ、これからの高齢者学習について」では、新潟大会は、その基本を学び活動創造と発展させ、過去の学び主体の形から目を開いた大きな進歩といえる。当分科会はその方向性を生かして討議が進められた。特に、これからの高齢者の学習に関わって、いくつかの実践例を含めた報告がされ、意義深いものとなった。また新潟では、公民館活動に従事する女性は、役所の縦系列の体制から参加者主体の活動に意識変革をもたらして楽しい活動の場づくりを得たことが報告された。講師は参加者の声をいかに吸い上げ活かすかが大切で、地元エゴに陥ることなく他町村との連携を考えるべきだなどが話題となった。(早川町 三井啓心、鈴木長雄)

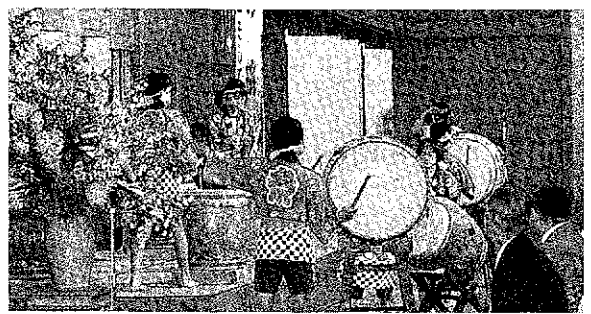
豪華なホテルは前評判どおりで、充実した分科会に満足し、温泉で早朝起床の長旅の疲れを癒した後、全体交流会で仲間と地酒に舌鼓を打ちながら、改めて、関係者の数々の行き届いた心配りに感動した大会でした。

豪華なホテルは前評判どおりで、充実した分科会に満足し、温泉で早朝起床の長旅の疲れを癒した後、全体交流会で仲間と地酒に舌鼓を打ちながら、改めて、関係者の数々の行き届いた心配りに感動した大会でした。

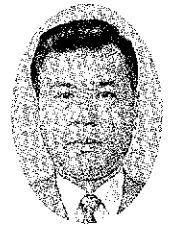
豪華なホテルは前評判どおりで、充実した分科会に満足し、温泉で早朝起床の長旅の疲れを癒した後、全体交流会で仲間と地酒に舌鼓を打ちながら、改めて、関係者の数々の行き届いた心配りに感動した大会でした。



△埼玉県公連 (次期開催県) への大会旗の引継ぎ



△アトラクション第 2 全体会本田小児童の宝来太鼓



# 関ブロ公民館研究大会・次の開催に向けて

埼玉県公民館連合会副会長兼事務局長 坂本 好司

一、はじめに

ワールドカップ・サッカー大会の余韻の残る記念すべき年の関ブロ大会。田園に囲まれた、豊浦町月岡温泉の華鳳は、公民館関係者が日頃の疲れを癒すのに十分な配慮の行き届いた会場であった。六百十名余の参加者が揃ったの見事と言える夕食交流会。関ブロの公民館の仲間達それぞれ立場で、元気を取りもどすことの出来た大会となった。

二、各論として感じたこと

(一) 大会資料  
新潟県公連の底力を感じさせる資料。編集能力の高さが申し分なく発揮されており、この大会に参加しなかった人でも、実践資料集として活用出来る資料となっている。

(二) 第一全体会 (一日目)  
主催者のあいさつ、来賓の祝辞、基調提案は、一貫して、現代の公民館を取り巻く状況を分析し、それぞれの立場において、公民館の果たす役割の重要性について述べられると共に、変化の時代の中で、発想の転換の必要性が強調されていた。

(三) 分科会の様子  
私は、次期開催県の事務局長の立場で、副実行委員長さんと一緒に十五分科会の全会場を巡らせていただいた。

(四) 第二全体会 (二日目)  
「縄文人の意識改革」と題した小林達雄氏の記念講演は、私達を一万三千年前の世界へとタイムスリップすると共に温故知新、私達にたくましく生き抜く力と方策を与えてくれる等、多くの示唆に富んだ内容であった。

(五) 第二全体会 (二日目)  
「縄文人の意識改革」と題した小林達雄氏の記念講演は、私達を一万三千年前の世界へとタイムスリップすると共に温故知新、私達にたくましく生き抜く力と方策を与えてくれる等、多くの示唆に富んだ内容であった。

(六) 公民館の諸課題  
このことについての道筋は、全国公民館連合会の松下会長と関東甲信越静公民館連絡協議会の今井会長(本大会実行委員長)が大会のあいさつにおいて述べられると共に、大会資料の中にも掲載されているので重複はさけて、小生なりに今回の大会の中で感じた課題の一端について述べてみたい。

(七) 公民館の古くて新しい課題  
公民館の古くて新しい課題は、公民館職員の仕事への姿勢と情熱である。自らが公民館の職員でありながら「公民館はいらないのではないか」とか、「公

(八) 複雑で多様化し、むずかしくなっている時代の中で、公民館職員(関係委員等)として輝やいていけるのは、仕事に対する限りない情熱である。一人一人の公民館職員や関係者が自分はこの仕事で、誰にも引けを取らないというもの(実践)を持つていれば、仕事も楽しくなるし、生きる力もわき上がってくることを思う。

(九) 公民館の古くて新しい課題  
公民館の古くて新しい課題は、公民館職員の仕事への姿勢と情熱である。自らが公民館の職員でありながら「公民館はいらないのではないか」とか、「公

(十) 公民館の古くて新しい課題  
公民館の古くて新しい課題は、公民館職員の仕事への姿勢と情熱である。自らが公民館の職員でありながら「公民館はいらないのではないか」とか、「公

(十一) 公民館の古くて新しい課題  
公民館の古くて新しい課題は、公民館職員の仕事への姿勢と情熱である。自らが公民館の職員でありながら「公民館はいらないのではないか」とか、「公

(十二) 公民館の古くて新しい課題  
公民館の古くて新しい課題は、公民館職員の仕事への姿勢と情熱である。自らが公民館の職員でありながら「公民館はいらないのではないか」とか、「公

# サークル交流

## 楽しいハワイアンフラ

KM宮原フラルーム

私がハワイアンフラに出会ったキッカケは、アマチュアの方の結成しているハワイアンの曲を聞きに行った時に初めてダンスを見たことでした。何んとステキな踊りなんだろうと魅了され教わることにしました。ハワイアンの曲に乗せて踊る曲はしつとりもの、早いもの、文化や意味振り付けなどとても奥深く、夢が広がり勉強することがとても楽しいです。その楽し



さを皆様にお伝えしようと教室を設けました。生徒さんの年齢もいろいろで、沢山の方と巡り会える喜び視野も広がります。

女性の方だけのフラではありません、男性の方もお楽しみいただけます。身体全体も使いますので運動にも最適です。忙しい中、家の中のやりくりなど逆に楽しみになると思います。殺伐としたこのさみしい時代を、ハワイアンフラで一人でも多くの方がお幸せになつて戴けたらと念願致しております。

(白根市KM宮原フラルーム 宮原 美奈子 記)

## 楽しくウォーク ストレス解消!

さかえウォーキングサークル

私達のサークルは、昨年度行われたウォーキング教室が発展してできました。充足してまだ半年ですが、毎週水曜日の夜を中心にして活動しています。これまでは、それぞれが一人でウォーキングをしていましたが、仲間と活動するようになり事故や不審者などの心配もなくなりました。それに、なんととっても仲間とおしゃべりをしながら



ら歩くことが楽しみとなりました。長い距離も苦にならず、時間が経つのがとても早く感じられ、ウォーキングの健康効果に加え、日頃のストレス解消にもってこいです。

栄町の花、花菖蒲の季節(9月号の表紙参照)には、森林公園を歩くなど季節にあわせてコースを選んでいきます。また、今年のウォーキング教室では、サークルでの活動の経験を生かして、アドバイスなどのお手伝いもさせて頂きました。これからもウォーキングがもっと楽しくなるように、工夫して活動していきたいと思えます。

(同サークル代表 小倉 厚子 記)

## 加茂市公民館

主事 小柳 豪志 さん

昨年4月、農林課から公民館に配属になって、青少年育成団体連絡協議会事務局、施設管理全般、その合間に陶芸窯の番人や各種事業などなど、ガンガンこなし、二年目の今では公民館の顔となっています。役所青年婦人部の部長も勤めた人物で、人あたりは抜群!!豪志くんご指



名のお客様もたくさん抱えております。また、研

## 素顔 拝見

関川村教育委員会・生涯学習課 課長補佐 石山キン さん

関川村生涯学習課は現在、職員は臨時を含めて八人。生涯学習、社会教育、社会体育、公民館事業もすべて担当しています。

この課に、今年四月に異動されて来たのが石山さんです。これまでの職場は保育園。三十四年間、保育一筋に勤めてこられ、もちろん生涯学習の仕事は今回が初めてです。

課長補佐の重責を担いながらこれまでの経験を生かして家庭教育、子育て支援などを担当し



ています。月に二回、幼児とその保護者を集めて開催している「チビッコ広場」では、実に楽しそうに子どもたちと接しています。

ふだんの仕事でも、少々テンションが高めなもの、三十年以上ずいっと子どもたちが相手だったからでしょうか。ストレスをためすぎないようにして、頑張ってください。

(生涯学習課 稲家 誠 記)

恵贈資料紹介

館報ゆきぐに

縮刷版

紹介が遅れましたことをまずもってお詫びいたします。

平成13年12月刊、第3巻(251号、252号)、第4巻(330号、337号)、第5巻(378号、437号)に至る大冊3巻の恵贈をいただきました。いずれも縮刷版です。毎月第3日曜日発行、全世帯配布の4、050部



恵贈資料紹介

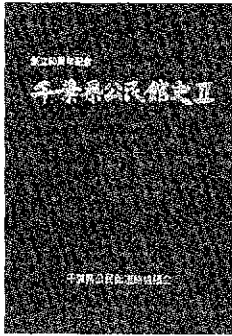
創立50周年記念

千葉県公民館史II

千葉県公民館連絡協議会

すばらしい50周年記念史が恵送されて参りました。

千葉県公民館史IIです。内容構成は、第I部千葉県公連のあゆみと展望、第II部千葉県公民館のあゆみ、第III部公民館の現状と課題、第IV部公民館活動の現在と未来、第V部創立50周年記念事業の概要、第VI部資料編の6部からなっております。とくに印象に残ったところ



は、第IV部の公民館活動の現在と未来で、第1章いま、公民館では、地域に生きる公民館活動、第1節子育て、第2節世代

間交流、第3節高齢者、第4節ボランティア、第5節障害者、第6節環境、第7節地域づくり、第8節少年、第9節青年、第10節市民活動、第11節男女共同参画、第12節人権、第13節国際交流、第14節スポーツ医療、第15節情報と、各節毎に各公民館の実践事例を紹介しているのが特徴的です。それでは、関係者の労苦に敬意を表します。

湯沢町公民館



紙面構成は①表紙絵、②例月原稿一町民憲章、月間事業カレンダー、図書室日より、子ども

電話相談、③表紙裏一公民館事業等、④社会体育関係一各種スポーツ事業の募集、結果、⑤社会教育関係一各種講座、サークル等の募集、活動状況、国、県等からの掲載依頼、⑥投稿一住民からの投稿  
この館報作成については、第43回関プロ公民館研究大会第4分科会で事例発表され、大変評価を高めております。

『関プロ大会事務局総括』その2

○名簿送付・参加費振込み  
民間業者委託に不慣れと不安感のせいから、県内の問合せが数多く殺到した。担当者が文書をよく読んでないのも要因の一つ。  
○名簿調整、印刷発注  
これも難航した。一覧表送付せず個票だけだったり、町村名が落ちていたり、照合・点検に手間どった。分科会参加者名簿の作成が大変遅れ、分科会担当者に不安感を与えてしまった。  
○大会事前準備  
運営要項にそって準備に入っただが、袋詰め作業までは順調

だった。しかし大会分科会場の設営では、ホテルで客利用の関係から、夕方5時近くから入ったせいから、終了したのが8時近かった。ここでも、分科会担当スタッフに大変迷惑をおかけした。  
○当日の運営  
おかげ様で天候にも恵まれ、受け付けを外で行ったせいから流れもよく、大会式典関係も細密な計画の下、順調に進み、ほっとした。懸念されていた分科会場への移動も、先回の総括にあったとおり、スムーズに流れた。

あとがき

◇関プロ大会記録集の校正作業に入っておりますが、分科会記録の校正には、委員一同泣かされております。十五人十五様で。

表紙解説

虫川の大スギ  
(国指定天然記念物)

樹齢千年以上、目通り約十一メートルの大樹です。堂々とそびえ立つ様は見る者を圧倒し、荘厳な気持ちにさせます。  
(浦川原村中央公民館)

◇今年度の文科大臣優良公民館表彰は、新潟市東地区公民館に授与されたそうで、誠にめでたうございます。12月号で紹介の予定です。(鈴木記)

発行所 新潟県公民館連合会  
〒951-8053  
新潟市川端町2-9・県林業会館内  
TEL・FAX (025)224-6073  
発行人 会長 今井 昭 友 夫  
編集人 事務局 長 鈴木 友 夫  
印刷 第一印刷所  
〒950-8724  
新潟市和合町2-4-18  
TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776  
【定価1部150円 年共1,800円】